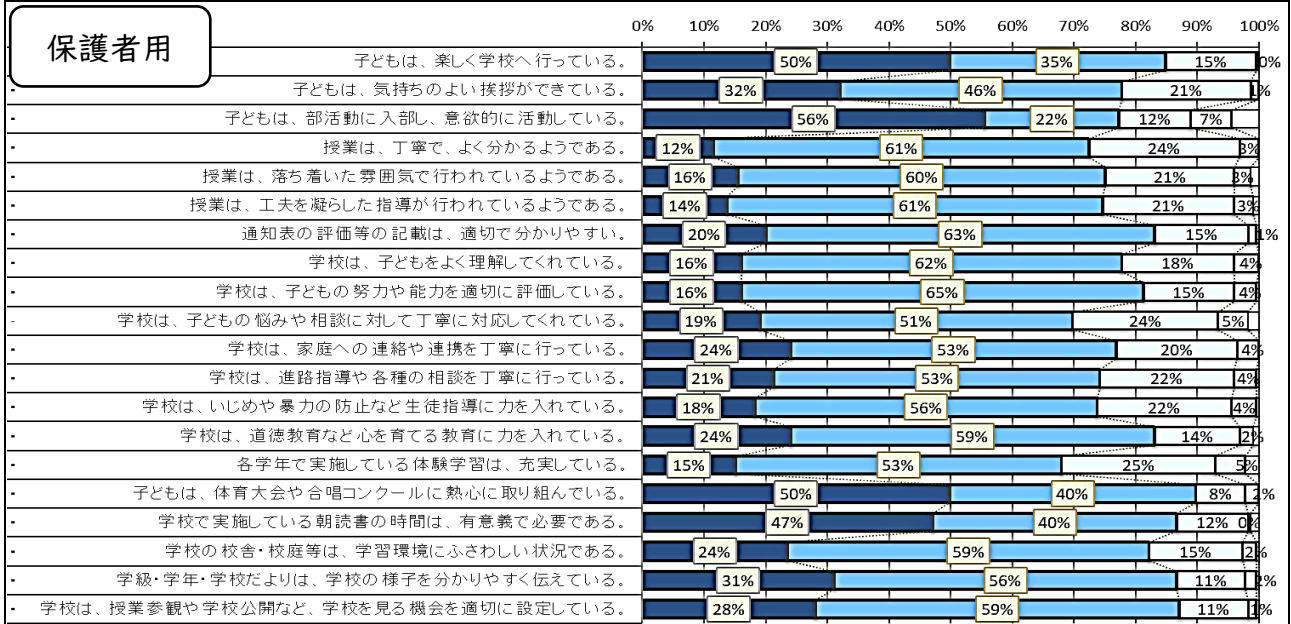
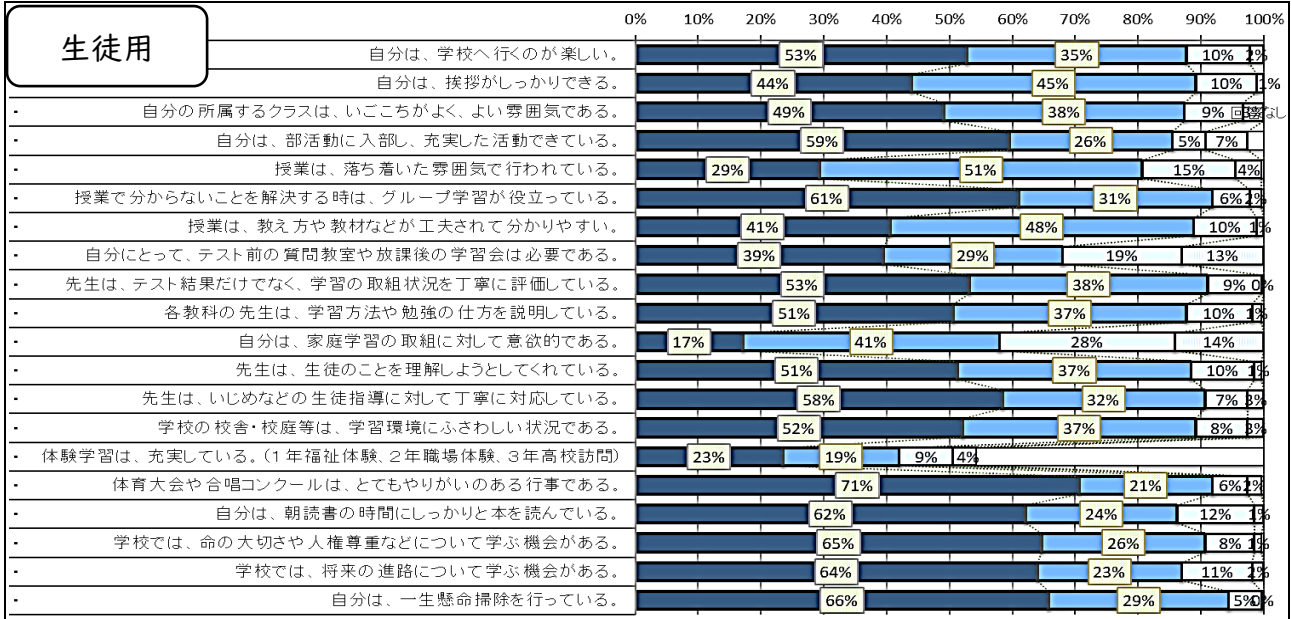


□グラフの見方



→左の濃い色のグラフから順に A:そう思う、B:ややそう思う、C:あまり思わない、D:そう思わない



□昨年度同様、生徒も保護者も肯定的な評価（A・B）が、ほとんどの項目で70%以上である。

- 生徒は学級の雰囲気や授業に関する項目で昨年度よりも肯定的な回答をしている。
- 保護者は家庭との連携や行事・体験学習等において昨年度よりも肯定的な回答が減少している。
→昨年度肯定的な回答が多かった「家庭連絡や連携」「各種の相談」について、今年度は若干の減少が見られる。コロナ禍だからこそより丁寧な連携や教育相談を実施していく必要がある。

□生徒も保護者も授業に関して肯定的な回答が増えている。

- 新学習指導要領以降を踏まえた研修や学習支援員による指導の効果が一定表れている。
- 短縮校時を原則行わず、7校時授業を実施することで十分な授業時間が確保できていた。
- 生徒は放課後の学習会に対して昨年度よりも否定的な意見を持っている。
- 家庭学習に意欲的に取り組む生徒が、昨年度よりも一層減少している。
→タブレット端末を効果的に活用し、基礎基本事項の確実な定着を図り、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実践しつつ、放課後学習などにおいては個に応じた指導をより工夫する必要がある。

□コロナ禍における十分な対策をとりながら、行事や体験活動を充実させる必要がある。

- 行事や体験活動は感染症拡大防止策を取りながら可能な限り実施していく。
→感染状況を注視しつつ、従来通りの実施が困難な場合は、実施形態を工夫するなど生徒の力を十分に伸ばすことができるようにしていく必要がある。

